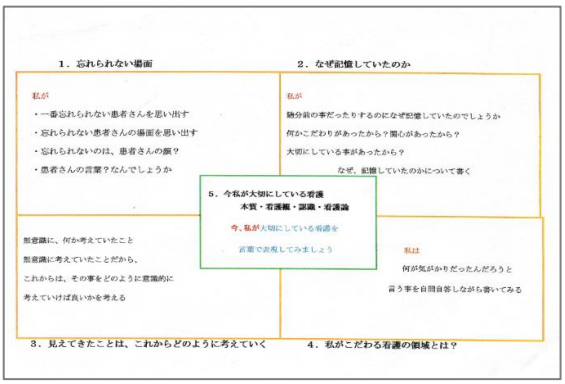
第５７回　東京消化器内視鏡看護勉強会レポート

テーマ　：「私の思い・内視鏡看護」～お互いに伝えてみましょう～
開催日　：　２０２３年７月８日（土）14：００～16：00
会場　　：　五反田文化会館
出席者　：１１名（世話人含む）

今回は、２度目になる陣田泰子先生の「看護の概念化シート」を使用しグループワークを行いました。



まず世話人の堀内さんより「この概念シートは書いて、話して、振り返る事が大切で、無理して書かなくてもよいものです。自身の看護を振り返り、これを繰り返していくと自分の看護を概念化できます。」と説明があり、シートに沿って①から⑤まで自身の振り返りを行った後、グループで語り合いました。

① 忘れられない場面を看護の領域に関わらず書き出す。
② その場面をなぜ記憶していたのか書く。
③ 無意識に考えていたこと。見えてきたことは、これからどのように意識的に考えていくのかを書く。
④ 何が気がかりだったのか自問自答しながら書く。
⑤ 今、私が大切にしている看護を言葉で表現する。

以下にグループ内で語り合った事例を２つご紹介します。

事例１　　内視鏡検査を受ける高齢の患者さんとそのご家族が、付き添いながら検査室に入室しようとされた為、ご家族に対して「検査室の外でお待ちください。」という声かけを行った。それは病院の決まりがあっての行動だった。検査後日、ご家族からその時の対応について不満足であった旨のお手紙を受けとり、家族の思いを知

る事になった。患者さんとご家族の気持ちを汲み取る大切さと、難しさを目の当たりにした。

この事例から、「忙しい現場ではどこでも起こり得る症例であり、自身も経験がある。」「病院の決まりがあるなら自分は当たり前の事と思ってしまうかもしれない。」「医師が見学を許可しない場合もある。その時はどうすればよいのか？」などの意見が飛び交いました。

事例２　化学療法入院中の患者さんが無断外出され、そのまま自死されてしまった。自分は２日前に担当していた。口数は少なかったが、部屋に入ると少し表情を緩めて、読んでいた新聞を置いて受け答えしてくれる患者さんだった。身体の状態は小康状態であったが安定していた。ラウンドに行った際の「いつもと変わらないよ。」という返答が今でも忘れられない。患者さんの死を知ったその時の情景が何年も経過しても鮮明に思い起こされ、「何かサインはなかっただろうか？」と患者さんの心に気付けなかった自分を責める後悔の気持ちが今でも込み上げてくる。

この事例からは、「患者さんの表情、言葉の声色、『あれ？』『なんだかいつもと違う。』という看護師の直感のようなものはどんな場面でも大切にしていきたい。」また、「積み重ねた経験から直感が生み出される。」といった意見が聞かれました。

私もグループワークに参加し、今まで心に引っかかっていても言葉にできなかった思考が、この看護の概念化シートに書き出すことで視覚的に明確になりました。無意識だった「自分の大切にしている看護」を言葉にしたとき、心の整理ができたという感覚でした。グループ内で自分の経験を語り、他の方の考えを聞いて共感したり、考えの違いがあったとしてもその違いを受け止めたこの経験はいろいろな考えを受け止める事にもつながるという事を学び、患者さんへの思いの数だけ看護があるという言葉が心に浮かびました。

当勉強会では、職場では看護の振り返りが出来ない方でも気軽にご参加いただき、自身の看護観を振り返ることができる機会を今後も作っていきたいと考えております。

本日の事後アンケートでは「自分の経験していない症例について話し合うことが出来、新たな視点を持つ大切さを学ぶことが出来た。」というお声を頂きました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

次回は 2023 年 11 月 18 日（土）を予定しております。勉強会で取り上げてほしいと希望される声が多い、「経鼻内視鏡」がテーマです。皆様のご参加をお待ちしております。

文責　白井直美